

私自身ができそうな被災地の農業再生について

私ができる被災地での農業再生について、資料や講義を通じてまず思ったのは、私自身が被災地についてまた土壌、放射性物質等について知識を得ることです。このことが直接農業再生につながるとは思いませんが、まず何をするにしても、現状も対して知らず、メディア流れているような偏ったわずかな情報程しか知らない状態では本当に被災地のためとなることはできないのではないかと思いました。実際、この放射線環境学の授業を今まで受けてきた中で、自分の持っている知識がどれほど浅くて表面的なものであるかを痛感しました。授業ごとに各先生方は様々な視点から様々なことを教えてくださりました。知らなかったことも多々あり、そのように多くの人から多くのことを見聞きするのは非常に重要なことではないかと思いました。また、しっかりと知識を持つことで、自分になにができるか考えられたり、同じ光景もべつの見方ができるのではないかと思いました。

しかしながら、知識を身につけただけではただの頭でっかちな人間になってしまうので、実際に被災地に訪れることも大切だと思います。私自身まだ被災地を訪れたことはないのですが、実際に訪れ様々なものに触れることでしか学べないものもあるのではないかと思います。それに、そのようにして、より多くの人々が被災地や農業等について興味を持ち、訪れるようになれば、それ自体が被災地復興、農業再生につながり得るのではと思いました。

私が今具体的にできそうな農業再生としてあげるなら、授業でも取り上げられていたままでの工法や土壌分析等のお手伝い、また、ボランティアとして子供たちに農学や土壌などについて教えに行く、学園祭などで被災地原産の料理や被災地の郷土料理をふるまう、農学や土壌についてや被災地について冊子などにまとめて配る、といったことが考えられます。私達大学生には大きなことをするほどのお金も立場もありませんが、体力と時間ならあると思います。ささいなことしかできませんが、そのささいなことの積み重ねが「国による大事業」よりも大きな成果につながる可能性もあるのではと思いました。

農業再生のための具体的な技術については、あまり知らないのですが、今回の授業で知ったことについて手伝えることをあげました。農家自身でも出来る除染法ということなので私でも出来るのではと思います。より多くの人に知ってもらおうということに関しては、いまの私自身でも出来ることが多くあるのではないかと、逆に大学生の今でしか出来ないこともあるのではないかと思いました。

これから、まずはもっと知識を身につける、そしてボランティアをすることももう少し積極的に考えていこうと思いました。